

信頼性の高い分析結果の獲得に資することが期待される。ここでは 21 縦断調査データから、シミュレーションの標本をデータ管理情報を利用して半自動生成するシステムを開発し、今後の分析の基礎を与えた。これにより、諸外国で行われているタイプの政策関連のマイクロシミュレーションをはじめ、今後、本縦断調査に即した多様なモデルが開発され、応用されることが期待される。

■ 21 世紀縦断調査統計処理の概要と課題

調査実施、データ作成の実際的課題についての検討を行った。縦断調査における実施と公表のサイクルには 1 年間という時間的制約があり、公表可能な内容には限界があるので、これとは別の時間フレームで詳細な分析を行う必要が指摘できる。また 5 年目、10 年目などの集積の節目に詳細な結果を集約することも有効であろう。データクリーニングの実際における困難は大きく、とくに複数回の整合性を計ることは必ずしも各調査時に行えず、後の回に正答が得られることもあるから、遡ってのデータ修正も考えねばならない。これにともなって、過去公表値の修正もあり得るので、その影響の検討も必要であろう。回答の欠損、整合性違反については、現状において確認の手だてはないが、調査結果の有効性、妥当性を確保するために、何らかの方策、たとえば後の調査における確認のための設問や、対象者に対する直接的追認の仕組み、回答時におけるチェック（インタビュー調査の場合コンピュータ利用による以前の回答の参照が行われている例）などを考慮する必要性が指摘される。

次に縦断調査の公表では、これまで公的横断調査で行われてきたような単純なクロス集計の提示に止まらず、高度な統計分析へ踏み込む必要が認められる。各種事象間

の因果関係、とりわけ施策ターゲットとなる事象や属性集団の特定、および施策効果の測定を目指す縦断調査では、因果関係の把握を目的とする統計手法を駆使する必要が指摘できる。公的な統計においてこれをどのように実現してゆくかは、重要な検討課題であり、諸外国に学びながら本調査の事情にあった形を築いてゆく必要がある。

その他、対象者と良好かつ中立的な関係の維持や一連の調査業務（企画、実施、回収、データ整備、集計分析、公表等）に対する人的リソースの制約への対処など、実際的課題の解消、軽減について、実施、システムの整備と並行して検討を続ける必要がある。

■ 21 世紀縦断調査データ管理システムの開発

縦断調査では独自のデータ管理・分析システムが必要となる。そうしたシステムでは既存のソフトウェアを前提に考える前に、システムの要件について十分検討しておく必要があるだろう。また、長期に継続する調査の間には大きなハード・ソフト環境の変化が予想される。したがって、概念的なシステム構築、すなわちメタシステムの検討を十分行うことが重要であろう。そうした観点から本研究ではシステム要件を検討し、これらを満たすメタシステムを構想する形でデータ管理システムのあり方を検討した。その結果、個票データセットおよび各種データ情報についてそれぞれ一元管理の基本姿勢の重要性が浮き彫りとなった。すなわち、縦断調査では蓄積する複数のデータセットと付随する多種の情報の管理・活用への対応が基礎的課題であり、一元管理の仕組みが必要である。その他のシステム要件としては、統一性、汎用性、柔軟性が重要であるとした。

本研究では上記メタシステムの具体的課

題を検討するために、まず試験的システムを構築した。すなわち、コード表を中心としてデータセットとその他の情報を各種ツールでつなぎ、データ管理ならびに集計分析を行うシステムである。これにより実際に分析プログラムの基礎となる頻度分布、ヒストグラム作成プログラムの自動生成が可能となり、実際に課題が明らかになった。次に、これを発展させ、現在広く用いられている標準的リレーショナル・データベース・システムの枠組みを応用することにより、各回および各調査票に対応する多数のデータセットを連携させるシステムを開発した。これによれば、特定のテーマに対する集計ならびに統計分析の際に、必要な変数値を複数のデータセットから自動的に集約し、集計ならびに統計分析用のソフトウェアに受け渡すことができる。したがって、分析者において毎回多数のデータセットを同時に扱う負担を軽減し、また多様かつ多重な対象者間の関係や変数の扱いにおいて、混乱や誤りを防ぐことができると期待される。ここで開発したパネル(縦断)調査データベースシステムは、すでに実用が可能と考えられるが、本システムは、細部の調整やユーザインターフェースの調整によって、今後も機能の拡張や使い勝手の改善によって、その有効性を高めてゆくことができる。

■ 21世紀縦断調査における脱落・移動・回答不詳に関する検討

調査の実際的課題として、調査票の回収不能、回答不詳への対処がある。とりわけ縦断調査においては、対象標本の脱落の問題がある。それらは居住地移動に伴う場合が多く、それは多くの場合就業、結婚、出産などをはじめとするライフコース事象にともなって生ずることから、無作為でない脱落を引き起こし、分析結果に偏りを引き

起こすことが予想される。したがって、そうした不詳、脱落の状況の把握と分析、対処について検討することが重要となる。

今回、2回の調査結果が得られた出生児縦断調査の基礎的な分析結果によれば、2回目の脱落率は必ずしも低くなく、また選択的に生じている。たとえば、母親有業、低所得の場合などに脱落が多いことは、当調査の政策的意義に関わるものであり、対策の必要性が指摘される。また住所地の都道府県が異なる標本が8.3%あり、やはり大都市居住、核家族、高学歴などで選択的に生じており、とくに父母に別居・離死別が生じた場合やひとり親世帯で移動率が高いことなどは、当調査の目的に関連が深く、こうした移動が脱落につながらない方策の必要性が指摘される。

標本の脱落、とりわけ偏った脱落を防ぐために、諸外国等の先行調査においては多様な工夫と努力が行われている。こうした経験は、可能な限り、本縦断調査でも活かしてゆくことが必要であろう。たとえば、本調査において、転居者の追跡については、自己申告以外にも、予め回答者の了承を得て、何らかの追跡できる方法が取れたならば、調査の精度が飛躍的に高まるだろう。コンセンサスのあり方も含め、対象者の居住地の移動に関する行政的情報の活用は、検討する価値がある。また先行調査では、謝礼の充実や工夫に脱落防止の効果が見られるものの、反面で調査結果への影響も懸念される。むしろ対象者に調査の意義を十分理解をしてもらうことを、第一義的な努力の対象とすべきであるとする。そのためには、調査実施に携わるすべての担当者の誠意ある姿勢や説明責任の遂行、優れた調査結果を社会に対して提供し、その改善に役立つ努力、ひいては政府ならびに行政当局に対する一般的な信頼の程度などが重要な要素となるだろう。

■分析事例：結婚・出生に関わる意識・意欲に関する基礎的分析

本研究による検討では、出生の規定要因の効果を明らかにするモデル分析において、調査時点で妊娠していたケースを除いてしまうと、分析対象標本数の減少により推定結果が不安定になる場合があった。これについては、次回調査結果を加えてイベント数を確保することが考えられる。しかし、調査票の妊娠歴に「現在妊娠中」といった項目を追加することによっても、出生に至ると推定されるサンプルを増やすことができ、要因の影響についてより安定的な結果が得られることが期待される。各種要因は、出生そのものよりも妊娠の発生に直接的な効果を及ぼしていることに配慮する必要がある。

今回の分析では、成年者調査においては使用できるデータが2回分までであったこともあり、意欲・意識の行動に対する影響の特定は難しく、意欲や意識の基礎的分析に留まった。その制約にもかかわらず、妻の希望子ども数は独立に決定されるのではなく、夫婦の話し合いによって相互依存的に決定されること、子育てに対する肯定的な認識は、妻の希望子ども数を増加させる方向にも減少させる方向にも作用すること、夫の家事・育児時間の増加は妻の希望子ども数の減少を制止する効果があるなどの新しい知見を含んだ結論を導くことができた。成年者調査では、夫婦の場合夫妻それぞれが調査対象者であるという標本設計の独自性があり、そのことから他の調査からは得られない知見を得ることができるので、今後その可能性についても検討してゆくことは価値のあることである。また、今後、調査が回を重ねていくことで、今回分析したような意欲や意識が、現実の結婚行動や出生行動にどのように関わっているのかについて明らかにしていくことが可能となる

であろう。

■分析事例：育児負担に関する基礎的分析

出生児調査と成年者調査を連携させ、子育て費用をめぐる分析を行った結果からは、子育ての経済的負担について、負担感という意識の面と実際の経済状況とは、重なっている部分もあるが、一致しない部分もあり、単純な関係ではないことが示された。これは子育て支援施策を考える上で、実際面にのみ焦点を当てた政策では十分ではないことを示唆している。今後蓄積される縦断調査データをこのようなことに焦点を当てて分析し、政策的インプリケーションを導くことが提案されている。また、出生児調査のデータについても、子育ての負担感の規程要因の分析を行い、調査ごとによる変化を分析することの意義が明らかになり、それを可能とするデータの蓄積の重要性が指摘された。

■分析事例：地域情報の利用に関する基礎的分析

まず、縦断調査分析の地域的課題に対する先行研究の知見の検討を行った。地域間の婚姻・出生格差は、女性の就業や都市化といった要因だけでは説明できず、そこに地域文化とでもいうべき固有の格差が存在すること、この固有要因による格差は、近年の全国的な少子化の進行の中でも大きく変化していないことが指摘されている。また、婚姻や出生動向に県という行政区分を超えた地域的なまとまりが見いだされ、今後の地域政策の方向として、既存の行政区分にとられない地域の協力と連携が必要であることが特に示唆に富むと考える。出生率上昇地域の特徴として、就業機会の創出や定住施策など、既存の少子化対策という枠を超えた、総合的な「地域政策」として政策が実行されている点が示唆に富む。こう

した地域的事例研究と縦断調査研究との連携の可能性についても検討すべき課題だと考えた。次に、そうした地域の特徴を考慮する分析を試みた。その結果、子育て意識・行動・制度間の因果関係の検証を可能とする政策評価システムの開発の必要性が指摘できる。有用な調査結果をいかにして地域社会に還元するかについてもさらに検討していく必要がある。

E. 結論

諸外国において先行するパネル調査のサーベイからは、パネル調査が広範な分野で活用されており、とくに政治や選挙に関わる調査や犯罪学の分野など、より実地的な社会科学の分野ではっきりした目的で長く活用されてきており、少子化のメカニズム把握と対策、次世代の健全育成施策の探索を目的に行われる 21 世紀縦断調査の妥当性が確認されるとともに、先行調査の中に模範的事例を数多く見ることができる。しかし、そうした諸外国のパネル調査をレビューして明らかになったことは、その多様性と膨大な数にも関わらず、実は現在日本で実施されている 21 世紀縦断調査のように、出生児・成年者・中高年の 3 グループを毎年追跡するようなプロジェクトは稀であり、今後 5 年、10 年、30 年と継続的にデータが蓄積され、有効な分析がなされていくことで、わが国における行政上の必要性はもちろんのこと、国際的、学術的に見ても貴重な財産となって行くだろうということである。このような貴重なデータは、できるだけ広範で多様な利用が可能となるよう、いずれは国内外のデータバンク等へ登録し、公開していくことが望ましいと考える。しかし、その一方で、そうしたこれら調査の価値、すなわち信頼性や内容の水準を維持して行くためには、調査に関わるすべての人々への十分な配慮に基づく体制

を確立、維持してゆくことが必要である。というのは、本縦断調査群の価値は、単に制度として自動的に保証される性質のものではなく、第一義に調査対象者の協力、ならびに他の協力者や実施に携わるメンバーの資質と熱意によって支えられるものである。継続的に調査を続ける性格のパネル調査では、この種の認識はきわめて重要であろう。それは本研究の中でも詳細に検討されたように、不備な体制下においては脱落や、不詳・不整合な回答の増加として、結果の信頼性に影を落とす。調査を支えるすべての個人に対して、その善意にのみに依存し、本質的に報いるシステムを持たないとすれば、調査はたちまち価値の薄い数字を生成するだけのルーチンと化すことが想像される。調査対象者を含め、調査の各過程における個人に対する支援体制と、これを評価する仕組みについての不断の検討が求められる。

そうした観点からも、一方で現場における負担を出来るだけ避けるために、データ管理、集計・分析作業に対する支援システムを発達させることが有効であり、本研究事業の主眼もここにあった。優れた分析結果は、優れたデータに依存し、それはまた優れた調査実施体制の下での担当者の真摯な努力と、信頼関係にもとづく快適な状況下での対象者の協力で支えられる。翻って、それらの信頼を維持するもっとも本質的な手段は、有意義な分析結果の社会への提供と、これに基づく有効な施策の実施であろう。21 世紀縦断調査は、単に新しいタイプの社会調査というだけでなく、同世紀のわが国における科学的根拠にもとづく政策決定システムの確立に基礎を与えるものとして位置付けるべきであろう。本事業で研究対象としたデータマネジメントシステムは、そうした縦断調査の実施と分析を結ぶ部分に位置し、その効率と基本姿勢が調査全体

の流れに強い影響を持つとの思いから、研究班一同、研究業績を度外視し、格別の努力を集約したものである。今後は、本事業の成果を基に、より有効な研究分析が展開できるようなシステムへと発展がなされること、そしてそこから国民の健康と福祉に資する科学的な研究成果が量産されることが切に望まれる。

(今後の課題)

パネル調査の情報ベースならびに文献データ、レビューについては、データベースとして維持・発展させ、今後が発生する情報をも網羅しつつ、一般の利用に付し、わが国のパネル調査の広がりにも寄与するよう位置付ける。データマネジメント・分析システムの今後の発展については、現行システムを土台としつつ、統計分析の支援に重心を移し、機能の追加、ユーザインターフェースの改善などによって、効率的で実用的なシステムを目指して改良を進める。調査が進むにしたがって、調査の有効性、信頼性に深刻な影響となり得る標本脱落、不詳などのデータ欠損の発生については、発生パターンなどについて継続的にモニタリングならびに統計分析が行えるよう独自の支援システムを用意し、対処法について常に検討を行う体制を整えることが望まれる。さらに、本年度に行った分析事例に見られるように、個々のテーマに即した適切な変数の作成法、クリーニング法を整備し、信頼性の高い分析方法を確立する。また、そうした脱落・不詳や各種テーマの分析結果を、調査票設計などの企画・実施へ有効に還元させる仕組みを検討する。

F. 研究発表(開発事業につき研究発表なし)

※ なお、本研究における調査データの使用は、すべて承認統計調査調査票使用規程（目的外利用申請）に基づいて行われた。

II. 個別研究報告（事例・理論）

1 諸外国におけるパネル調査のレビュー

釜野 さおり

本研究の目的は、アメリカを中心とした諸外国において、これまでに実施されてきたパネル調査をレビューし、パネル調査に関する情報ベースを作成し、日本においてパネル調査の実施およびその分析を進めるにあたっての参考となる資料を作成することである。

これまでに実施されてきたパネル調査に関する情報は散在しており、またパネルデータの形式を持つ調査の数も多いため、それら全てを把握することは不可能であるが、ここでは国際的に見ても充実しているミシガン大学の大規模なデータバンクと、小規模であるものの、社会科学系の縦断調査のデータをまとめて所有しているハーバード大学のデータバンク(Murray Center)を中心にサーベイを行った。これらのデータバンクやそれらを経由してたどりつく情報を用いた理由は2つある。ひとつは、データバンクのような所に登録されているということで、調査の質が、ある程度保障されていると思われるからである。もう一つは、そのデータの分析の成果の情報、分析のための個票データへのアクセスが可能であり、今後、縦断調査の分析等に関する研究を進める上で、有益であるためである。

ミシガン大学のICPSRから抜き出した調査は、2005年8月時点で“panel”ならびに“longitudinal”のキーワードで検索された調査の内容を、それぞれ確認した結果に基づいている。Murray Centerのデータバンクから抜き出したものは、2005年5月時点で登録されていたもののデータ形式を確認し、longitudinalと記されたものである。これらのうち、調査対象者が100人に満たない規模の小さなものや、データ自体がパネル形式であっても個人に対して行った調査に基づいたものではないもの（たとえば州の統計に基づいたデータ）は除外した。

本レビューでは、上の方法で抜き出したリストしたパネル調査それぞれについて、(1) 調査の目的と調査主体（政府や大学が機関として実施しているもの）、(2) 調査項目、(3) 調査対象・調査方法、サンプリングの方法、(4) サンプル数、回収率等に関して、掲載した。なお、これらの調査についての情報源の原語はすべて英語であり、本報告ではその内容を要約して和訳して掲載している。用語などの統一には十分注意を払ったが、不完全な部分も多々ある。ファイル上から直接ウェブサイトへのリンクを貼ることのできた調査については、オリジナルの情報源のURLも記載している。

以下、パネル調査を3つの大きなグループに分類して掲載した。「リスト1」は、健康、医療制度、教育、労働、家族関係、子どもの発達、子育てなど、日常生活に関わる内容を持つ調査を含んでいる。これらの調査の多くに、現在、厚生労働省の行っている「21世

紀縦断調査」と類似した項目や内容が含まれている。「リスト2」は選挙や政治意識に限ったパネル調査、「リスト3」は犯罪学に関わる調査や各種更生プログラムの効果に関わる調査である。これらは21世紀縦断調査との内容とは関わりないものの、「パネル調査」が大いに活用されている分野であることから、今回のレビューに含めている。

21世紀縦断調査および今後のデータ分析の参考となると思われる調査の例を挙げると、出生児調査については、イギリスの1970年生まれの17000人をほぼ5年置きに追跡している **British Cohort Study**、その2000年版の出生児を妊娠や出産の状況からはじまって毎年調査している **Millennium Cohort Study** が挙げられる。アメリカの調査でも、2001年生れの子どもを10000人以上を追跡(隔年)し、発育や発達に関して調べている **Early Childhood Longitudinal Study** などが挙げられる。また、抽出した世帯の16歳以上の人を毎年追跡する **British Social Attitudes Survey Panel Study**、高校2年生からその後の教育や労働生活への移行をみるアメリカの **Education Longitudinal Study of 2002**、同じく高等学校からそれ以降の生活について、後の家族形成プロセスも含めて広くたずねている **High School and Beyond** 調査(61-63)、**National educational Longitudinal Study** (高校生を2年ごとにフォローアップ)、**National Longitudinal Survey of Youth**、**Wisconsin Longitudinal Study** などは、成年者調査を進め、分析して行く上で示唆を与えると考えられる。2002年に開始されたイギリスの50歳以上の人を2年置きに追跡する調査 (**English Longitudinal Study of Ageing**)、高齢の親とその家族について多方面から調査した **Longitudinal Study of Generations and Mental Health** は、中高年調査の参考となろう。付け加えれば、家族全般に関する調査としてすでによく知られている **National Survey of Families and Households**、収入やその他関連事項をみている **Panel Study of Income Dynamics**、1958年生まれの17000人を子ども期、青年期、成人期に合計6回調査している **National Child Development Study** 等、網羅的な調査に加え、カップルを婚約中から20年後まで追跡する **Kelly Longitudinal Study**、55歳以下の結婚している人を20年間追跡した **Marital Instability Over the Life Course**、退職に焦点を当てた **Retirement History Longitudinal Survey**、介護状況に関する調査 **National Long-Term Care Survey** などは、21世紀縦断調査によっても取り上げられている・取り上げられだろうトピックについて引き続き調査をし、データを分析する際の資料となろう。

最後に、これらの調査をレビューして明らかになったことは、パネル調査の形を部分的でも持っている調査は数多いが、現在日本において実施されている、出生児・成年者・中高年の3グループを毎年追跡するようなプロジェクトは稀少であり、今後5年、10年、30年と継続され、そのデータが十分に分析なされていくことで、世界的に見ても価値のあるものとなると考える。いうまでもないが、このようにして収集されたデータは、できるだけ多くの人々が利用できるように、国内外のデータバンクなどへの登録し、公開していくことが望ましいと考える。

パネル調査リスト一覧 (アルファベット順)

(*ファイル上では、調査名をクリックすることにより、概略の表における調査の記述に移動できる)。

1. 健康・医療・家族生活・家計・労働・教育に関する調査

- 1 [Abortion Study \(ds605\)](#)
- 2 [Adolescent Health Care Evaluation Study \(ds915\)](#)
- 3 [Adolescent Mental Health Study \(ds641\)](#)
- 4 [Adolescent and Family Development Study\(ds945\)](#)
- 5 [Aging, Status, and Sense of Control \(ASOC\), 1995 and 1998:\[United States\] \[ICPSR 3334\]](#)
- 6 [American Couples \(ds1008\)](#)
- 7 [American Management Association's Survey of Women Business Owners \(ds563\)](#)
- 8 [Americans' Changing Lives: Waves, I, II, and III, 1986, 1989, and 1994\[ICPSR 6438\]](#)
- 9 [Australian \[Adelaide\] Longitudinal Study of Aging, Waves 1-5 \[1992-1997\] \[ICPSR 6707\]](#)
- 10 [Beginning School Study \(ds1293\)](#)
- 11 [Berkeley Social Contexts of Learning Study \(ds1157\)](#)
- 12 [British Cohort Study \(BCS70\)](#)
- 13 [British Social Attitudes Survey Panel Study, 1983-1986 \[ICPSR 3090\]](#)
- 13 [British Social Attitudes Survey Panel Study, 1991-2004](#)
- 14 [Career Aspirations Among Smith Undergraduates: A Longitudinal Study \(ds533\)](#)
- 15 [Career Motivation and Achievement Planning \(ds1135\)](#)
- 16 [Career Plans and Experiences of June 1961, College Graduates \[ICPSR 7344\]](#)
- 17 [Carolina Abecedarian Project and the Carolina Approach to Responsive Education \(CARE\), 1972-1992 \[ICPSR 4091\]](#)
- 18 [Charleston Heart Study, 1960-2000 \[ICPSR 4050\]](#)
- 19 [Child Rearing Antecedents of Hypnotic Susceptibility \(ds570\)](#)
- 20 [Childhood and Beyond \(ds1930\)](#)
- 21 [Chinese Longitudinal Healthy Longevity Survey \(CLHLS\), 1998-2000 \[ICPSR 3891\]](#)
- 22 [Cognitive and Emotional Development in Early Adolescents \(ds527\)](#)
- 23 [Colorado Adoption Study \(ds913\)](#)
- 24 [Consumer Durables and Installment Debt: A Study of American Households, 1967-1970 \[ICPSR 7497\]](#)
- 25 [Consumer Expenditure Survey, 1982-1983: Interview Survey \[ICPSR 8598\]](#)
- 26 [Coping and Health Among Older Urban Widows \(ds1017\)](#)
- 27 [Cornell Retirement and Well Being Study \(ds1776\)](#)
- 28 [Cultural Continuity Study \(ds1923\)](#)
- 29 [Denver Family Development Study \(ds1021\)](#)
- 30 [Early Childhood Longitudinal Study \[United States\]: Kindergarten Class of 1998-1999, Third Grade \[ICPSR 4075\] \(ECLS-K\)](#)
- 31 [Early Childhood Longitudinal Study, birth cohort 2001-2002 \[ICPSR 04261\]](#)
- 32 [Early Head Start Research and Evaluation \(ds97\)](#)

- 33 Early Years of Marriage Study (ds1018)
- 34 Education Longitudinal Study of 2002 [ICPSR 未登錄]
- 35 Effect of Job Transfer on American Women (ds600)
- 36 Effect of Parenthood on Marriage (ds220)
- 37 Effect of the Welfare Woman's Working on Her Family (ds865)
- 38 English Longitudinal Study of Ageing (ELSA)
- 39 Epidemiologic Catchment Area Study, 1980-1985: [United States] [ICPSR 6153]
- 40 European Household Panel Survey
- 41 Experience-Induced Affective Development in Children and Adults (ds529)
- 42 Experiences and Plans of Young Adults, 1973-1978 [United States] [ICPSR 8074]
- 43 Explorations in Equality of Opportunity, 1955-1970 [United States] [ICPSR 7671]
- 44 Factors Influencing Concentration Choice Among Undergraduates (ds530)
- 45 Family Life Project: A Longitudinal Study of Adoption (ds1610)
- 46 Family Lifestyles Project (ds642)
- 47 Family Relationships Study (ds606)
- 48 Family Socialization Project (ds23)
- 49 Family Transformations (ds715)
- 50 First Malaysian Family Life Survey, 1976-1977 [ICPSR 6170]/ Second Malaysian Family Life Survey: 1988 Interviews [ICPSR 9805]
- 51 Follow-up and Replication of Prevalence of Bulimia Among College Students (ds1023)
- 52 Follow-up of the Kelly Longitudinal Study (ds522)
- 53 Follow-up on the Internship Component of the Women and Career Options Program (ds1040)
- 54 Geographic Mobility of Labor, 1962-1963 [ICPSR 7434]
- 55 German Socio-Economic Panel (SOEP) [ICPSR 131] 1984-2004 年
- 56 Grant Study of Adult Development (ds290)
- 57 Harlem Longitudinal Study of Urban Black Youth, 1968 [United States] [ICPSR 121,
- 57 Harlem Longitudinal Study of Urban Black Youth (ds845)
- 58 Harvard Bereavement Study (ds636)
- 59 Health and Ways of Living Study, 1965 Panel: [Alameda County, California] [ICPSR 6688] / Alameda County [California] Health and Ways of Living Study 1965, 1974 [ICPSR 6838] 1994, 1995 [ICPSR 3083]
- 60 High School and Beyond, 1980: A Longitudinal Survey of Students in the United States [ICPSR 7896]
- 61 High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort First Follow-Up (1982) [ICPSR 8297]
- 62 High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort Second Follow-up (1984) [ICPSR 8443]
- 63 High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort Third Follow-up (1986)
- 64 High School to College Transition Study (ds15)
- 65 Indochinese Health and Adaptation Research Project, 1982-1984 (ds1086)
- 66 Kelly Longitudinal Study (ds431)
- 67 Life Styles of Educated Adult Women (ds70)
- 68 Lives Through Time (ds625)
- 69 Longitudinal Study of Career Development in College-Educated Women (ds9)
- 70 Longitudinal Study of Dual-Earner Couples (ds1016)
- 71 Longitudinal Study of Generations and Mental Health (ds960) [ICPSR 129]

- 72 Longitudinal Study of Transitions in Four Stages of Life (ds169)
- 73 Longitudinal Study of the Life Patterns of College-Educated Women (ds7)
- 74 Longitudinal Study of the Occupational Stress and Health of Women Licensed Practical Nurses and Licensed Social Workers (ds763)
- 75 Marion County [Oregon] Youth Study, 1964-1979 [ICPSR 8334]
- 76 Marital Instability Over the Life Course [United States]: A Six-Wave Panel Study, 1980, 1983, 1988, 1992-1994, 1997, 2000 [ICPSR 3812]
- 77 McBeath Institute Aging Women Project (ds595)
- 78 Medicare Current Beneficiary Survey, Access to Care, Calendar Year 1992: [United States] [ICPSR 6332]
- 78 Medicare Current Beneficiary Survey, Access to Care, Calendar Year 1993: [United States] [ICPSR 6637]
- 79 Michigan Student Study: Opinions, Expectations, and Experiences of Undergraduate Students, 1990-1994 [ICPSR 4027]
- 80 Midlife Development in the United States (MIDUS): Boston Study of Management Processes, 1995-1997 [ICPSR 3596]
- 81 Millennium Cohort Study (MCS)
- 82 Ministers' Wives (ds11)
- 83 National Survey of Families and Households, 1987-1988;
- 83 National Survey of Families and Households, 1992-1994 [ICPSR 6906]
- 84 National Child Development Study (NCDS)
- 85 National Education Longitudinal Study
- 86 National Health Interview Survey, 1994: Second Supplement on Aging [ICPSR 2563]
- 86 National Health Interview Survey, 1994: Second Longitudinal Study on Aging, Wave 2, 1997 [ICPSR 3526]
- 86 National Health Interview Survey, 1994: Second Longitudinal Study on Aging, Wave 3, 2000 LSOA II [ICPSR 3807]
- 87 National Health Interview Survey: Longitudinal Study of Aging, 70 Years and Over, 1984-1990[ICPSR 8719]
- 88 National Health and Nutrition Examination Survey I: Epidemiologic Followup Study 1982-84 [ICPSR 8900] / 1986[ICPSR 9466] / 1987 [ICPSR 9854]/ 1992 [ICPSR 6861]
- 89 National Long-Term Care Survey: 1982, 1984, 1989, 1994, and 1999 [ICPSR 9681]
- 90 National Longitudinal Study of the High School Class of 1972 (NLS-72): [ICPSR 8085]
- 91 National Longitudinal Survey of Youth, 1997-2001 [ICPSR 3959]
- 92 National Longitudinal Surveys of Labor Market Experience [ICPSR 7610]
- 93 National Maternal and Infant Health Survey, 1988: Longitudinal Follow-Up, 1991 [ICPSR 6401]
- 94 National Medical Care Utilization and Expenditure Survey, 1980 [ICPSR 8239]
- 95 National Medical Expenditure Survey, 1987: Household Survey I, Population and Home Health Providers [ICPSR 9339] / Household Survey, Prescribed Medicines for Medicare Beneficiaries[ICPSR 9340]
- 96 National Nursing Home Survey, 1985 [ICPSR 8914] / National Nursing Home Survey Followup: Wave I, 1987 [ICPSR 9813] Wave II, 1988 [ICPSR 9838] Wave III, 1990[ICPSR 6142]
- 97 National Survey of Attitudes and Choices in Medical Education and Training (ACMET) II, 1997 [ICPSR 3317]
- 98 National Survey of Black Americans, Waves 1-4, 1979-1980, 1987-1988, 1988-1989, 1992 [ICPSR 6668]
- 99 National Survey of Personal Health Practices and Consequences [United States], 1979-1980[ICPSR 8220]

- 100 National Survey of Third Generation Members of the Youth-Parent Political Socialization Study, 1997 [ICPSR 3926]
- 101 National Survey of the Japanese Elderly, 1987[ICPSR 6842], 1990 [ICPSR 3407]1993 [ICPSR 4145]
- 102 New York Longitudinal Study (ds1126)
- 103 No Shame in My Game: The Working Poor in the Inner City (ds35)
- 104 Ohio Longitudinal Study (ds139)
- 105 Panel Study of Income Dynamics, 1968-1999 Annual Core Data [ICPSR 7439]
- 106 Patterns of Child Rearing (ds235)
- 107 Pregnancy and Parenthood Project (ds165)
- 108 Prince George's County Study of Adolescent Development in Multiple Contexts (ds1066)
- 109 Project Talent Public Use File, 1960-1976 [ICPSR 7823]
- 110 Project on Human Development in Chicago Neighborhoods: Longitudinal Cohort Study (ds1953) / Project on Human Development in Chicago Neighborhoods: Systematic Social Observation(SSO) (ds1952)
- 111 Prospective Study of 500 Second Graders (ds772)
- 112 Psychological Aspects of Fertility Behavior in Women (ds27)
- 113 Quality of Canadian Life: Social Change in Canada, 1977 [ICPSR 7879]
- 114 Quality of Employment Survey, 1973-1977: Panel [ICPSR 7696]
- 115 Radcliffe Class of 1969 (ds1027)
- 116 Remarriage After Divorce: A Longitudinal Analysis of Well Being (ds726)
- 117 Retirement History Longitudinal Survey, 1977 [ICPSR 7931]
- 118 Role Outlook Survey (ds10) 1964-1968 年
- 119 Rural Development in Deccan Maharashtra, India: Village Panel Study, 1942-1977 [ICPSR 9308]
- 120 Russian Village Household Panel Surveys, 1995-1997 [ICPSR 2816]
- 121 Survey of Income and Program Participation (SIPP)
- 122 Survey of Program Dynamics (SPD) Second Longitudinal File: Data Years 1992, 1993, 1994, 1996, 1997, 1998, and 1999 [ICPSR 3594]
- 123 Survey of Program Dynamics (SPD) First Longitudinal File: Data Years 1992, 1993, 1994, 1996, and 1997 [ICPSR 3315]
- 124 Survey of Program Dynamics (SPD), 1998: Public Use File [ICPSR 2917]
- 125 Survey of Program Dynamics (SPD), 1997: Experimental File [Bridge Survey][ICPSR 2797]
- 126 Second Duke Longitudinal Study (ds743)
- 127 Seven College Study: Goals, Attitudes, Values, and Experiences of Undergraduates at the Seven College Conference of Schools (ds618)
- 128 Socialization of Problem Behavior in Youth (ds782)
- 129 Springfield [Massachusetts] Study of Populations with Disabilities, 1993-1997 [ICPSR 2623]
- 130 Stanford Longitudinal Study (ds799)
- 131 Studies of Girls' Development, Ages 6-17 (ds166)
- 132 Study of Life Transitions (ds1015)
- 133 Survey of Consumer Finances Panel Survey, 1983-1989 [ICPSR 6892]
- 134 Tecumseh Community Health Study, 1959-1969 [ICPSR8969]
- 135 Terman Life-Cycle Study of Children with High Ability, 1922-1991 [ICPSR 8092]
- 136 Time Use Longitudinal Panel Study, 1975-1981 [ICPSR 9054]
- 137 Transition Into Adolescence: A Longitudinal Study (ds810)

- 138 Turkish Managers of Modernization Study, 1956–1965 [ICPSR 7077]
- 139 Union Representation Elections and the Role of the National Labor Relations Board [ICPSR 7625]
- 140 Wisconsin Longitudinal Study, 1957, 1964, 1975, 1977, 1992–1993, and 1993–1994 [ICPSR 6163]
- 141 Women and Family Project (ds17)
- 142 Women in Nontraditional and Traditional Blue Collar Occupations (ds759)
- 143 Women in Science Concentrations (ds999)
- 144 Women's Roles and Well-Being (ds1813)
- 145 Woodlawn Mental Health Longitudinal Community Epidemiological Project (ds774)
- 146 Worcester Family Research Project: Baseline Data (ds1099)
- 147 Young Men in High School and Beyond: A Summary of Findings from the Youth in Transition Project, 1966–1974 [ICPSR 3505]
- 148 Youth Attitude Track Study (YATS) [United States]: Fall 1991 [awaiting update to data] [ICPSR 6238] / Fall 1992 [awaiting new data] [ICPSR 6239]
- 149 Youth–Parent Socialization Panel Study, 1965–1982: Three Waves Combined [ICPSR 9553] / Youth–Parent Socialization Panel Study, 1965–1997: Youth Wave IV, 1997 [ICPSR 4023]

2. 政治・選挙に関する調査

- 201 American National Election Series: 1972, 1974, 1976 [ICPSR 7607]
- 202 American National Election Study, 1980 [ICPSR 7763]
- 203 American National Election Study, 1992: Pre- and Post-Election Survey [Enhanced with 1990 and 1991 Data] [ICPSR 6067]
- 203 American National Election Study, 1990–1992: Full Panel Survey [ICPSR 3083]
- 203 American National Election Study: 1992–1993 Panel Study on Securing Electoral Success/1993 Pilot Study [ICPSR 6264]
- 203 American National Election Study, 1994: Post-Election Survey [Enhanced with 1992 and 1993 Data] [ICPSR 6507]
- 204 British Election Study: June 1970–February 1974 Panel Survey [ICPSR 7869]
- 205 British General Election Panel Survey, 1986–1987 [ICPSR 6450]
- 206 British General Election Panel Survey, 1987–1992 [ICPSR 6451]
- 207 British General Election Panel Survey, 1992–1997 [ICPSR 2616]
- 208 British General Election Study: Campaign Panel, 1997 [ICPSR 2619]
- 209 Canadian National Election Study, 1972 [ICPSR 7140]
- 210 Canadian National Elections and Quebec Referendum Panel Study 1974–1979–1980 [ICPSR 8079]
- 211 Dutch Election Study, 1970–1973 [ICPSR 7261]
- 212 Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1971–1979 [ICPSR 6743]
- 213 Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1981–1986 [ICPSR 9272]
- 214 Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1986–1989 [ICPSR 6742]
- 215 Dutch Parliamentary Election Panel Study, 1989–1994 [ICPSR 6751]
- 216 Dutch Parliamentary Election Study, 1971 [ICPSR 7311]
- 217 Dutch Parliamentary Election Study, 1981 [ICPSR 7912]
- 218 Dutch Parliamentary Election Study, 1994 [ICPSR 6740]

- 219 Erie County Study, 1940 [ICPSR 7204]
- 220 Florida Voter Panel Study, 1999 [ICPSR 3435]
- 221 French Election Study, 1958 [ICPSR 7278]
- 222 German Election Panel Study, 1972 [ICPSR 7102]
German Election Panel Study, 1976 [ICPSR 7513]
German Election Panel Study, 1983 [ICPSR 8452]
German Election Panel Study, 1987 [ICPSR 9078]
German Election Panel Study, 1990 [ICPSR 6192]
- 223 German Election Study, August–September, 1969 [ICPSR 7108]
German Election Study, 1980 [ICPSR 7963]
- 224 German National Election Panel Study, 1972 [ICPSR 7110]
- 225 Mexican Election Panel Study, 2000 [ICPSR 3380]
- 226 National Black Election Panel Study, 1984 and 1988 [ICPSR 9954]
- 227 Panel Study of Political Values in the Former Soviet Union, 1990–1992 [ICPSR 6731]
- 228 Political Action Panel Study, 1973–1981 [ICPSR 9582]
- 229 Political Change in Britain, 1963–1970 [ICPSR 7250]
- 230 Political Support in Canada, 1983–1988 [ICPSR 9874]
- 231 Presidential Election Campaign Election Study, 1984: [South Bend, Indiana] [ICPSR 6522]
- 232 Russian Election Study, 1995–1996 [ICPSR 3323]
- 233 Televised Presidential Campaign Impact on Voters: 1972 Panel, Syracuse, New York [ICPSR 7989]
- 234 Three-Wave Political Socialization Panel Survey of Children in the San Francisco East Bay Area, 1968–1969 [ICPSR 2341]
- 235 Watergate Hearings Panel Survey [ICPSR 7352]

3. 犯罪・防犯・警察・更生プログラム・依存治療等のプログラム効果の調査

- 301 Community Crime Prevention and Intimate Violence in Chicago, 1995–1998 [ICPSR 3437]
- 302 Community Policing in Madison, Wisconsin: Evaluation of Implementation and Impact, 1987–1990 ICPSR 6480]
- 303 Crime Causation Study: Unraveling Juvenile Delinquency (ds896) 1940–1963 年
- 304 Drug Abuse Treatment Outcome Study--Adolescent (DATOS-A), 1993–1995: [United States][ICPSR 3404]
- 305 Drugs and Police Response: Survey of Public Housing Residents in Denver, Colorado, 1989–1990 [ICPSR 6482]
- 306 Effects of Determinant Sentencing on Institutional Climate and Prison Administration: Connecticut, Minnesota, Illinois, 1981–1983 [ICPSR 8278]
- 307 Evaluation of the Gang Resistance Education and Training (GREAT) Program in the United States, 1995–1999 [ICPSR 3337]
- 308 Evaluation of the Use of Computers in Patrol Cars by the San Francisco Police Department, 1999–2000 [ICPSR 3489]
- 309 Impact of Community Policing Training and Program Implementation on Police Personnel in Arizona, 1995–1998 [ICPSR 3789]
- 310 Longitudinal Evaluation of Chicago's Community Policing Program, 1993–2001 ICPSR 3335]

- 311 Modeling the Crime Reduction Effects and Economic Benefits of Drug Abuse Treatment, 1979–1981: [United States] [ICPSR 9991]
- 312 Modern Policing and the Control of Illegal Drugs: Testing New Strategies in Oakland, California, and Birmingham, Alabama, 1987–1989 [ICPSR 9962.]
- 313 National Treatment Improvement Evaluation Study (NTIES), 1992–1997 [ICPSR 2884]
- 314 Screening of Youth at Risk for Delinquency in Oregon, 1980–1985 [ICPSR 9312]
- 315 Social Effects of Minor Tranquilizer Use: Detroit, 1981 [ICPSR 8415]
- 316 Study to Understand Prognoses and Preferences for Outcomes and Risks of Treatment (SUPPORT) and Hospitalized Elderly Longitudinal Project (HELP), 1989–1997 [ICPSR 2957]
- 317 Women's Reformatory Study (ds895)
- 318 Youths and Deterrence: Columbia, South Carolina, 1979–1981 [ICPSR 8255]

凡例

<p>通し番号</p>	<p>調査タイトル 調査情報出典（データ所有者先における整理番号*） ウェブ上のリンク先 調査タイトルの和訳 調査対象国・地域／調査対象年齢・（あればオーバーサーサンプル等によって重点の置かれた年齢）／調査継続期間・調査頻度（情報がある場合のみ） X 年後は、調査開始年からの年数。）対象者の年齢で表示した場合もある。</p>	<p>調査の目的・サマリー (調査主体<個人の研究者の場合は省略。政府機関、大学研究機関等の場合は記載。 >)</p>	<p>具体的な調査内容・調査項目</p>	<p>母集団 標本抽出法、サンプル数 調査方法 その他関連情報</p>	<p>回収数、回収率、脱落等に関する情報</p>
-------------	--	--	----------------------	---	--------------------------

*ICPSR は Inter-university Consortium for Political and Social Research における整理番号。表内のウェブリンクから、オリジナルの情報へのアクセスが可能。
Ds は、Harvard MIT Data Center の Murray Archive における整理番号。 <http://vdc.hmdc.harvard.edu/VDC/index.jsp> へリンクし、サイト内の search で整理番号を入力することによって、オリジナルの情報へのアクセスが可能。

1. 健康・医療・家族生活・家計・労働・教育に関する調査

#	タイトル	目的	項目	調査方法・サンプリング	回収数・回収率
1	<p>Abortion Study (ds605) 1969-1974年 「妊娠中絶研究」 アメリカ北東部大都市／5年間・4回</p>	<p>妊娠中絶を制限した法律が無効との判断を最高裁が下した直後に、母胎健康上の理由で妊娠中絶を行なった人の心理的影響について検証。</p>	<p>人口統計情報、婚姻歴、両親と配偶者、心身の症状および病歴に関する背景データ。4つそれぞれのセッションで広範囲な臨床的な情報を得るための面談。 項目：避妊・受胎・妊娠歴。中絶を選択する理由、相反する感情、過去の病歴、心身健康歴、性行動、他者との関係、夢、懷疑・罪・怒り・恥・普段の気分状態、予想(期待)、診断名、活動や生活状況に関する変化、など。 MMPIを最初と第4回目のテストで実施。 Profile of Mood States POMSと Symptoms Rating Scale SRSは4回すべてのテストで実施。一部の被験者は、第1回と第4回に、California Personality Inventory CPIの女性性、社会化、近代化の質問票実施。</p>	<p>妊娠中絶のため北東部の大都市にある病院に訪れた女性から抽出。 1969年から1974年間の母体保護妊娠中絶を求めた他の患者約2300人の医師の報告による初回面談データ。中絶前、術後24時間後、6週間後、6ヶ月後に精神科医によってインタビュー。</p>	<p>女性102人。 全4回参加84人</p>
2	<p>Adolescent Health Care Evaluation Study (ds915) 1984-91年 「思春期ヘルスケア評価研究」 特別プログラムの助成金を受けたクリニック使用者／7年・4回</p>	<p>HIV感染リスクの高い青少年のヘルスケア向上のための大規模プログラムの効果評価。</p>	<p>クリニック来た理由、ほかに利用した医療サービス、身体的精神的な健康状態、家族のバックグラウンド、学校への適応状況、友人関係、ストレス、社会適応と支援、健康習慣、課外授業活動。 攻撃性、反社会的特徴に Diagnostic Interview Schedule DICA 1部使用。薬物・アルコール使用/濫用、喫煙、身体的症状、鬱状態や不安などの心理的症候判定に DIS 使用。 第2波：健康状態の変化と医療サービスに対する満足感を含む。医療サービスに対する満足感。追加のデータは、1波で識別された特定の問題の処理のために集められた。参加者のカルテも構造化したプロトコルを使用して調査。第3と第4波で、個</p>	<p>このプログラムの助成金を受けた7つのクリニックと3つの比較対照クリニックで収集。 最初の2回のデータは1984-85年(N=2788)と1985-86年(N=2415)に収集。ほとんどは労働者階級。76%女性。71%アフリカンアメリカン。 最初の2波の被験者からの層化無作為抽出による追跡調査。1989-1990年(N=602)、1990-91年(N=548)。</p>	<p>第1波 N=2788 第2波 N=2415 フォローアップ 初年度 N=602 次年度 N=548</p>

3	<p>青少年・精神健康</p> <p>Adolescent Mental Health Study (ds641) 1979-1980年</p> <p>「青少年の精神的健康に関する研究」</p> <p>6-8年生/12年生・21歳</p>	<p>環境の要因の組み合わせにより、どのように思春期から若い青年期の転換期のHIV危険行動の変化について説明できるか検討。</p> <p>被験者の肉体的、心理的、認知的発達、親や家族からの支援を受けた経験、友人関係と学校環境についてのいくつかの側面について評価するために70以上の尺度(調査票)使用。</p> <p>自己イメージ質問票、セクシュアリティと性役割に関する態度、教師への評価、家族評価、認知能力/技能など。</p>	<p>思春期の精神的健康の発達と心理的困難を調査。</p>	<p>思春期の327人とその親にこども期から思春期の移行期(6-8学年)に2度(1979,1980年)行なわれた。その後、12年生時と21歳時に追跡調査。</p>	<p>思春期の327人とその親たち</p>
4	<p>青少年・家族関係</p> <p>Adolescent and Family Development Study(ds945) 1978-1982年</p> <p>「青少年と家族の発達に関する研究」</p> <p>14歳・4年間</p>	<p>1978-1982の4年間にわたり、人格、モラル形成についての質問票を用いてデータ収集。</p> <p>毎年、変化、ストレス、家族と友人たちとの関係に重点を置いたインタビュー実施。家族間のやりとりの直接観察も、毎年実施。</p>	<p>家庭環境との関連において思春期の発達と心理について調査する。</p>	<p>3グループの思春期のこどもとその家族(インシュリン投与が必要な糖尿病の子たち、研究の最初の年に精神病院に入院していた子たち、そして、病気でない高校生)被験者の最初の接触時は14歳</p>	<p>糖尿病の被験者57人、精神疾患70人、病気でない76人。</p>
5	<p>高齢化・健康・生活</p> <p>Aging, Status, and Sense of Control (ASOC), 1995 and 1998:[United States] [ICPSR 3334]</p> <p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03334.xml</p> <p>「加齢、状況、コントロールの実態 1995年と1998年」</p> <p>全米/18歳以上/3年後</p>	<p>身体的健康、買い物、歩行、家事など日常生活の活動や心臓疾患、高血圧症、肺疾患、乳がん、糖尿病、関節症、リウマチ、骨粗鬆症、アレルギーマンやぜんそくなどを含む医学的症候。精神的健康に関する設問もあり。気がちならないようにする困難、悲しい気持ち、不安な気持ち、生活の楽しさなど。健康に関する行動：喫煙、飲酒、運動の頻度、医療サービスの利用、保険適用、処方箋医薬品の使用。回答者が生活をコントロールできるという感覚(ソーシャルサポートや社会参加、空き巣被害経験や暴行に遇った経験、大きな自然災害、6ヶ月以上の失業、衣服、家賃、食料、請求書やその他の必需品にかけられるお金が不足した経験。)</p> <p>人口学的属性(年齢、性別、婚姻状況、教育、就業状況、家族関係、社会経済的地位)。</p>	<p>英語を話せる18歳以上の成人。確率抽出。60歳以上をオーバーサンプル。</p> <p>1995, 1998年電話調査。</p>	<p>第1波：2593人 第2波：1378人 2波の質問は同じ。</p>	<p>第1波：2593人 第2波：1378人 2波の質問は同じ。</p>

6	<p>家族関係・仕事</p> <p>American Couples(ds1008) 1978-79年 「アメリカのカップルに関する研究」 2年間・2回</p>	<p>結婚あるいは同棲している異性間カップル、レズビアンカップルやゲイカップルの複雑な実態を調査。</p>	<p>質問項目、社会的な期待、カップルとして一緒に住む日々の暮らし、ライフスタイルの選択、政治・道徳・宗教観や実践。 1970年代のジェンダーの問題意識が、カップルの選択や意思決定に反映されていたかという問題に取り組んでいる。 その他、仕事についての選択、経歴、希望、問題解決、愛情の交流、性的嫉妬、金銭管理、疑念、信頼などについて。</p>	<p>1978-79年に新聞やテレビ広告を通じて得た協力者に、質問票が郵送された。郵送数は、異性愛カップル 7397、ゲイカップル 1875、レズビアンカップル 1723。1979年末に、追跡質問票がそれぞれのグループに郵送。</p>	
7	<p>仕事・女性経営者</p> <p>American Management Association's Survey of Women Business Owners (ds563) 1978-1979年 「アメリカ経営者協会による女性のビジネスオーナーの調査」 全米(該当者推薦) / 50歳以下 / 1年・2回</p>	<p>女性のビジネスオーナーの状況を把握するため彼女たちが直面した問題と、成功の決定要因の調査。 初回調査(女性起業家調査)は1978年にアメリカ経営者協会によって行われた。追跡調査は、1979年に必要な技術的支援を指摘するために行われた。</p>	<p>経営に関連した情報: 責任と活動、ビジネスの種類、従業員数、総収入高、いかに・いつ・なぜ・だれによってビジネスが始められたのか、試算と財務についての情報、オーナーと政府機関との関係、現在の肩書、家庭総収入。 学歴、職歴、婚姻区分、出産歴、転居歴、親のロールモデルや影響を受けたこと、自分の学歴と職歴についてふさわしいと思っているか、政府機関・大学・そのほかの専門組織からの援助に望むもの。</p>	<p>推薦により、女性のビジネスオーナーのリストを政府機関等から入手。収益において、もつとも成功しているとは判断された40人の女性に、女性調査員によって電話インタビュー。 アメリカのあらゆる地域からの人を含み、ほとんど50歳以下。3分の4は白人。</p>	<p>質問票は900人以上の女性に配付、有効票284(29%)。 うち95人の女性(33%)が1979年にSBA質問票を提出。 1978年の回答とマッチングできるのは95人中48人。</p>
8	<p>生活・意識・健康</p> <p>Americans' Changing Lives: Waves, I, II, and III, 1986, 1989, and 1994[ICPSR 6438] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06438.xml 「アメリカ人の生活の変容」 全米 / 全年齢・高齢者 / 3年後 / 8年後</p>	<p>生産領域での人間関係と参加している活動、健康や通常の活動、生産活動を妨げる予期しない出来事や慢性的ストレスにどう対処しているか、生産活動と、そこでの対人関係・意味づけ・その決定要因・その影響の社会的文化的違いを調べる。</p>	<p>対人関係(配偶者パートナー、子ども、親、友人)、つきあい、余暇、トラウマ的な出来事の実験、退職の捉え方、飲酒喫煙肥満休養の実態、医療サービスの利用、身体的健康、心理的健康、認知的機能、世帯の消費、子どもや孫の数、就業状態、職歴、収入、家族の経済状況、信仰、エスニシティ、人種、教育、性別、居住地。</p>	<p>第2波で60歳以上をオーバーサンプル。</p>	<p>1波 3917人、2波 2867人、3波 2562人(1波回答者全員にコンタクト+追加サンプル 164人。)</p>
9	<p>高齢者</p> <p>Australian Longitudinal Study of Aging, Waves 1-5 [1992-1997] [ICPSR 6707] [Adelaide]</p>	<p>社会、バイオ医学、環境要因が、70歳以上の人の健康およびwell-beingの年齢に関わる変化に、どのように関係している</p>	<p>第1波(1992-1993)の第1部は、コンピュータ補助による個人インタビュー(CAPI)システムによって行なわれた包括的な個人インタビュー、生理的機能の家庭</p>	<p>南オーストラリア、アデレード都市エリアに住む70歳以上の人の。</p>	<p>第6波 791人 臨床データ 527人</p>

健康・生活	<p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06707.xml</p> <p>「オーストラリア高齢化長期研究 第1-5波」</p> <p>Wave 6: 1999-2000 [ICPSR 3679]</p> <p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03679.xml</p> <p>「オーストラリア高齢化に関する縦断調査 第6波」</p> <p>南オーストラリア、アデレード、70歳以上/6年間</p>	<p>かについての理解を深める。病気、障害、短期および長期のケアサービス利用および死の影響に焦点を置く。健康状態の変化、ヘルスケア・ニーズおよびサービスの利用と、個人および社会的要因の間の複雑な関係を分析する</p>	<p>での支援、自記式質問票、そして追加の臨床研究を含む。第2波(1993-1994)、第3波(1994-1995)、第4波(1995-1996)、第5波(1996-1997)(それぞれの2、7、8、10部)は、住まい、現在の健康および機能的な状態、新しい病的な状態、投薬の変化、人生の大きな出来事、全般的な人生への満足感、経済状況の変化に関する質問を含む。第3波の第9部、臨床のデータ、回答者の健康歴に関する情報は、投薬、血圧および肉体的・精神的な障害についての情報を含む。</p> <p>第6波(1999-2000) 第1部は、コンピュータ補助による個人インタビュー、(CAPI)システムによって行なわれた包括的な個人インタビュー、生理的機能の家庭での支援、自記式質問票、そして追加の臨床研究を含む。第6波の第2部、臨床のデータ、回答者の健康歴に関する情報は、投薬、血圧および肉体的・精神的な障害についての情報を含む。</p>	<p>州の選挙人データ・ペーセスをサンプリング・フレームとして、アデレードの統計部で無作為抽出。ジェンダー、および年齢層 70-74、75-79、80-84、85歳以上で層化。地域在住および施設に入所している人が含まれた。さらに、指定された人の65歳以上の配偶者や、70歳以上の家族も参加を依頼。</p> <p>個人インタビュー、自己申告質問紙、臨床および家庭でのアセスメント。</p>	
子どもの発達・成長・成人	<p>Beginning School Study (ds1293)</p> <p>1982-2002年</p> <p>「就学開始に関する調査」</p> <p>ボルチモア市/1年生/20年間・5回</p>	<p>学業と社会的発達について小学校1年生から、高校生、その後まで追跡。</p> <p>都会の学童の通学開始という転換期とその後の個人の軌跡と学業発展について。</p>	<p>学校の成績、生徒の自己期待感、自尊心、自己制御、不認知の特徴など広範囲の測定。</p> <p>こども時代初期と後期思春期を過ぎ、若い成人の時期にはいるにつれて、デート行動、職業計画、薬物の使用、そのほかの思春期に関わるトピック。1998年と2002年初頭に行なわれた「若成人調査」では、恋愛関係、婚姻区分、子育て、仕事、教育歴の詳細。</p> <p>家族と学校の背景データを収集。学校や近隣のデータは人種の混ざり具合、学級の中でどのグループのあり方、社会経済的レベル、他の関連領域を含む。</p> <p>ほぼ全ての調査年で、成績のつけ方、自分の仕事や学校についての気持ち、クラス</p>	<p>1982年に開始された20年の調査。ボルチモア市立小学校のこどもたち、その親、教師、学校のデータも含まれる。2段階無作為抽出された838人のボルチモアの公立学校の1年生。</p> <p>始めに20校が、人種混合と社会経済的状態による層によって抽出された。次に、1年生をそれぞれの学校内で無作為に標本抽出。</p> <p>こどもは全員同じ基礎カリキュラムの学校に通い、同じ棒給システムの教師に教え</p>	<p>アフリカンアメリカンの女子226人、白人女子193人、アフリカンアメリカン男子235人、白人男子184人。</p>